

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1849 号

Evaluation of urinary aqp2 and plasma copeptin about the effectiveness of desmopressin acetate

(単一症候性夜尿症患者に対する尿中アクアポリン 2、血漿コペプチンの抗利尿ホルモン製剤治療効果指標の検討)

原 太一 (はら たいち)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

夜尿症は、就学開始時で 10%超と報告されており頻度が高い。夜間尿濃縮力障害を 50%に認めるため内服治療の第 1 選択は抗利尿ホルモン製剤 (DDAVP) である。しかし治療効果の判定は夜尿日誌や夜間尿量から行っており明確な治療効果指標はない。尿濃縮力を反映するアクアポリン 2 (AQP2)、AVP と相関するコペプチンの日内変動と夜尿症に関する報告は散見されるが、DDAVP 治療前後での経時的変化に関する報告は見当たらない。

本研究では生活習慣指導後、家庭で尿・血液を採取し経時的な評価を行った。尿中 AQP2 昼夜比変化は夜尿成功率と相関を認め、DDAVP 有効群は不応群と比較し尿中 AQP2 昼夜比変化に有意な変化を認めた。これは DDAVP 治療効果の新しい評価指標となりえる可能性がある。また DDAVP 有効群に関しては治療前・終了後間で尿中 AQP2 及びコペプチン昼夜比の有意な低下を認めた。これは夜尿症の病因と考えられている、抗利尿ホルモンの日内変動分泌が改善したことを示唆するものである。

本研究は、夜尿症の病因とその改善を明らかにし、DDAVP 治療に対する新しい評価指標を提案した点が高く評価される。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。